

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390300016		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム名古屋北久手 1階		
所在地	名古屋市北区北久手町80番地		
自己評価作成日	令和4年8月31日	評価結果市町村受理日	令和4年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoNoCd=2390300016-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・散歩や外出・買い物などなかなか行けなくなりましたがその分2階に集まり朝から夕方までレクや歌・運動などがあり笑い声で溢れています。
 ・1人1人がその人らしい生活をして頂けるよう支援して生き生きとした活気のあるホームであり続けている。
 ・コロナ禍の為地域との交流という点ではできないことが多くありますが利用者様にとっては一瞬一瞬がかけがえのない人生でありますからコロナウイルス感染予防を徹底し限られた条件のもと季節を感じて頂ける室内レクを実施し気分転換を図っています。
 ・ホームの理念「活気横溢」の考えのもと入居者様には介助の必要な方にも分からないと決めつけず皆で楽しい事を計画実行している。介助時の必要な声掛けのみでなく常に沢山の声かけを心掛けている。職員も正しい仕事をすることで誇りを持って生き生きと働ける環境を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、電話による聞き取り調査とした。
 安定した職員雇用を基盤として、管理者が目指す明るく楽しい職場づくりが着々と進んでいる。職員はホーム理念である「活気横溢」の本質を理解し、その具現として職員の企画による週替わりのイベントが実施されている。ともすれば「コロナ禍による閉塞感」に陥りやすい昨今の状況ではあるが、理念に忠実な支援の下に利用者や職員が生き生きと生活している。
 1階のユニットには、要介護度5の利用者が5名入居している。居室から出ることが難しい利用者であっても、体調が許す限りリビングに誘い、利用者は生活の輪に加わって過ごしている。重度化による支援の困難さはあっても、利用者を分け隔てしない「利用者主体」の支援が実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有している。活気横溢の理念を共有して生き生きと働かせて頂いています。理念を目につく壁に掲示し共有に取り組んでいる。地域行事やボランティア活動に参加している。	利用者だけでなく、ホームに関わる全ての人々が明るく楽しく暮らせるよう、「活気横溢」との理念を掲げている。コロナ下にあっても、職員の知恵と創意工夫で活気あるホームが実現している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの制限がない時は散歩や外出など日常的に行っている。地域の一員として交流している。入居者様の交流は見受けられない。	町内会の回覧板が回って来るが、恒例行事の中止の案内が多い。コロナ下ではあるが、地域の資源回収は実施されており、職員が参加して地域との協力関係の維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けてイベントなどの発信や参加などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告、話し合いをしている。ホーム活動や状況を発表し意見を頂いている。	過去1年間の6回の運営推進会議は、すべて対面の通常開催である。コロナの感染状況が悪化したときは、外部からの参加は家族のみであるが、落ち着いてくれば行政や地域代表、知見者も参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係を作っている。	2ヶ月毎に、いきいき支援センター(地域包括支援センター)が主導して区の介護事業所を集め、認知症カフェ再開のための会議を開いている。その会議に管理者が参加し、ホームでの開催を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為について理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束を行っている現場は見たことないです。研修にて周知を図っている。	3ヶ月に1度、身体拘束廃止委員会を開催し、職員の意識の統一を図っている。支援の中で不適切な言動があった場合には、管理者がその場で注意するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はある防止に努めている。頻繁に研修をしている。参加できない職員へも資料の共有をしている。研修にて周知を図り防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会をもっている。権利擁護については知っているが利用されている方がどこまで支援をうけているか分かりません。勉強会を行っているが内容はとても難しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っています。入居前は本人様や家族様の心配や不安も大きいので丁寧に説明してから入居して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱が設置されているが使用したことはない。入居者様の訴えを傾聴するように心掛けている。	家族面会は、事前予約の上で相談室を使って15分に制限して認めている。家族面会は少なく、電話等によって家族の意見や要望を聞き取ることが多い。「頑張って！」と、家族からの応援がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の面談の機会があるので意見は言えるが特に意見はありません。月に1度ホーム会議を開催し意見交換の場としている。会社全体でアンケートなどがある。	月に2回の個別面談と月に1回のホーム会議があり、職員意見を聞き取る体制は構築されている。管理者にプライベートな相談もあり、職員雇用は安定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回誕生日カードやプレゼントが送られ感謝してやりがいが出たことがある。折々の差し入れでスタッフを思う気持ちが伝わる。各職員の能力や人柄に合わせた声掛けや業務は位置を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議にて毎月の勉強会やリモートによる研修を行い日々の業務に活かせるようにしている。なるべく多くの職員が研修を受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や申し送り、勉強会、研修など、しっかり行われている。リモートによる研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン会議がしっかり行われている。本人が安心できるように本人の声にも耳を傾けている。入居時の情報をもとに声掛けし他入居者様と共同生活を送るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の声にも耳を傾けている。良好な関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様へ情報提供が適宜なされている。まずは必要としている支援を見極めている。職員間でも検討しながら対応の仕方を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし合えるよう努めている。本人の能力に合わせて協力して頂ける部分は助けてもらっている。洗濯干しや畳むことを職員と一緒にやっている。本人様の残された能力を最大限活かして頂けるようなケアを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支えていくよう本人の声を聴こうとしている。良好に思える。コミュニケーションをとることで関係を担っているように思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ努めている。短時間でも面会できるようにすすめている。コロナ渦で自由にならないこともありますが安全を確認した上での面会、リモート面会を行っている。	コロナの感染状況が緩んだ春、馴染みの公園に花見に出かけて屋台での買い物を楽しんだ。利用者を少人数に分散して実施し、感染防止の対策を講じて臨んだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように一緒に関わり合えるように努めている。仲の良い入居者様が声掛けすると笑顔がみられる。席の配置にも考慮し支え合いを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様から連絡があれば速やかに管理者に報告しフォローできる体勢ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思を確認しています。本人本位に検討している。日常の会話、仕草、表情から本人様の思いや意向を聞いたり読みとりし情報共有している。	ユニットによる介護度の開きがあり、1階ユニットでは介護度5の利用者が半数以上である。利用者が居室に籠らないようリビングに誘い、日々の支援の中から思いや意向を汲み取ろうとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めている。各部屋個性的なのは馴染を大切にしているからだと思います。入居時本人様・家族様から思いを聞いてこれまでの暮らしの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り努めています。申し送りなどで各スタッフが共有して対応に努めている。定期的なアセスメント・モニタリングを行い有する力生活への思いについて現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン会議で話し合いが行われています。話し合いをしながら計画を作成している。現状に即した計画が作られている。他職種との情報交換、検討を行い様々な意見を取り入れたケアプランを目指している。	短期3ヶ月、長期6ヶ月の目標を設定し、利用者主体の介護計画を作成している。重度化が進んでいるユニット(利用者)は、安全を重視した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当スタッフはもとより個別で一言メモに様子や気づきなどの記入がなされ共有されています。共有し計画の見直しに活かしています。申し送り、ケアカンファレンスなどにより職員の気づきの共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本に希望など記録に残したり管理者に報告されて共有され柔軟に対応しています。本人様や家族様の意向をその都度確認している。看取りを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦の為地域の方やボランティアの受け入れは行わなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の希望で他医院を使う方が数名いる。	すべての利用者がホーム協力医をかかりつけ医とし、月に2回の訪問診療を受けている。週に1日、看護職員(法人内巡回勤務)が出勤して利用者の健康管理にあたっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護・看護の連携に努め看護師が必要な助言や指示を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を積極的に行い入居者様の適切な処置について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	チームで支援に取り組んでいる。施設として出来ることとできない事の範囲について家族様に説明している。医療機関と連携しながら出来る限りの対応をしている。	重度化、終末期の支援に関する指針があり、利用開始時に利用者・家族の同意を得ている。協力医はホームでの看取りに理解があり、昨年度も1件の看取りを行った。臨終には立ち会えなかったが、亡くなられた日に面会できたことで、家族から感謝された。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当などの訓練をしている。急変時はすぐに管理者へ連絡し指示を仰ぐように徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の時を想定し訓練を行っている。夜間想定訓練も行っている。	ハザードマップ上では災害警戒無指定地区であり、年に2回の防災訓練を実施している。食料備蓄は、期限管理を含めて法人が管理している。停電に備えてのランタンや、仮設トイレの用意もある。	久しく消防署立会いの防災訓練がない。コロナ収束後の防災訓練時には、消防士の立会いを依頼し、有益な助言・アドバイスを得ることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時々乱れることがあるがその都度管理者より周知がなされている。時々言葉使いが乱れることがある。概ね丁寧な対応をしている。勉強会にて学ぶ機会を作っている。	認知症が進んでいたり介護度が高かったりと、集団行動や意思の疎通が難しい利用者があるが、分け隔てのない支援を実践している。体力の許す限りリビングに誘い、利用者の輪に入ってもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望やご本人の気持ちを汲み取るようスタッフが働きかけています。入居者様の食べたいものをメニューに組み込むなどはしている。訴えに対して傾聴するだけでなく表情やしぐさに注目するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば入浴をしたくない時は次回に見送ったり、横になりたい時はベッドへ案内する等希望に沿っている。出来るだけその人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身綺麗に整えられている。汚れた服はすぐに着替える。毎日整ったヘヤセットをする。ご自分で選べる方には用意して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好きなものを聞いて提供している。元気な入居者様としている。	調理専任職員を2名雇用し、3食手作りの食事を提供している。メニューは法人で決められているが、嗜好調査の結果を反映させ、別メニューで提供することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キッチンと水分量を記録し出来ている。管理栄養士のメニューでバランスは考えられている。特に水分摂取の管理が必要な方には本人様が好まれる飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアと歯科による口腔ケアを行っている。うがいが困難な方には口腔ケア用ウェットティッシュを使用し清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立から一部介助の方への声掛けや見守りが行われている。排泄確認が困難な方もトイレ後の確認を行っている。排泄パターンを把握しトイレでの排泄が出来るように誘導や声掛けをしている。	電子媒体の「ノータイス」(記録支援ソフト)を活用し、利用者個々に合った排泄を支援している。利用者ごとの排泄パターンや状態が容易に確認でき、職員の動きに無駄が亡くなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日確認し必要時適切な量の頓服薬を使用。食事や水分も整えられている。排便管理はできている。食事に食物繊維が多く含まれているように思う。毎朝牛乳を提供している。適度な運動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なかなか入浴できない方の時間を合わせたり個別での対応を行っている。週3回の中で各自のタイミングを合わせています。	週に3回の入浴を基本として支援している。自立度が高く、独りで入浴したい利用者がいる。「一人入浴」を介護計画に載せ、毎回(更新毎に)家族の同意を取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中適度な運動を取り入れ夜間の安眠に繋げている。長時間椅子に座られている方はベッドで休息する時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更時は共有がなされ注意すべきことなど変化の確認ができている様子。間違えないように2人で確認しあって服薬介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日レクや歌声、個別機能訓練など行われご本人達も楽しそうに参加されている様子。誕生日会や年中行事を盛り上げてやっている。食事面でも嗜好品を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は減っているが食べたいものの欲しい物の希望を聞き努力している様子。今はやれていません。散歩にお連れし気分転換を図っていた。	コロナ禍によって外出支援に制約はあるが、感染状況が緩んだ時には積極的に外出している。春の花見は、利用者を少人数に分散して実施した。喫茶店や弘法大師のお参りにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能であればご本人のお金で支払いを行っている。お金を所持している方もみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話できるように介助されている。不穏時に家族様に電話して安心して頂けるように家族様の了解を得ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	綺麗で配置もスッキリしています。テラスで日光浴もしています。掃除・消毒は行き届き悪臭はない。気温に応じ温度・湿度の調整をしています。お好きな音楽や映像をながしくつろげる空間づくりをしています。	コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、電話による聞き取り調査とした。この項目のコメントなし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごしたりお部屋で過ごしたり各々が思うように過ごせている様子。ソファがあり入居者様同士で座ったり横になる方もみえる。1人が好きな方は1人席です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1人1人個性があり馴染の物を使い動きやすい配置で考えられています。各個室个性的になっているので家族様と相談の上のことと思われる。	コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、電話による聞き取り調査とした。この項目のコメントなし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スッキリしています。トイレも分かりやすいです。全ての入居者様が安全に移動できるように動線上に邪魔な物がないか気を配っている。お部屋に表札をつけて自分の部屋が分かるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390300016		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム名古屋北久手 2階		
所在地	名古屋市北区北久手町80番地		
自己評価作成日	令和4年8月31日	評価結果市町村受理日	令和4年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2390300016-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・散歩や外出・買い物などなかなか行けなくなりましたがその分2階に集まり朝から夕方までレクや歌・運動などがあり笑い声で溢れています。
 ・1人1人がその人らしい生活をして頂けるよう支援して生き生きとした活気のあるホームであり続けている。
 ・コロナ禍の為地域との交流という点ではできないことが多くありますが利用者様にとっては一瞬一瞬がかけがえのない人生でありますからコロナウィルス感染予防を徹底し限られた条件のもと季節を感じて頂ける室内レクを実施し気分転換を図っています。
 ・ホームの理念「活気横溢」の考えのもと入居者様には介助の必要な方にも分からないと決めつけず皆で楽しい事を計画実行している。介助時の必要な声掛けのみでなく常に沢山の声かけを心掛けている。職員も正しい仕事をすることで誇りを持って生き生きと働ける環境を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有している。活気横溢の理念を共有して生き生きと働かせて頂いています。地域の中に溶け込んだホームを目指している。ボランティアに参加する。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの制限がない時は散歩や外出など日常的に行っている。地域の一員として交流している。入居者様の交流は見受けられない。散歩など外に出る機会を設け近所の方と交流することがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けてイベントなどの発信や参加などを行っている。実際に入居者様と交流をして頂くことで理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告、話し合いをしている。ボランティアの会長や家族に参加して頂き意見を聞いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係を作っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為について理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束を行っている現場は見たことないです。定期的な勉強会と日常のケアの中で当たり前になっていることが正しいケアか職員と話し合うことがある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はある防止に努めている。頻繁に研修をしている。参加できない職員へも資料の共有をしている。3か月に1度の会議と定期的に勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会をもっている。権利擁護については知っているが利用されている方がどこまで支援をうけているか分かりません。勉強会を行うことで理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っています。契約時に管理者が行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱が設置されているが使用したことはない。目安箱の活用はできていない。直接ご意見を頂くことはある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の面談の機会があるので意見は言えるが特に意見はありません。職員の意見や話を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回誕生日カードやプレゼントが送られ感謝してやりがいが出たことがある。折々の差し入れでスタッフを思う気持ちが伝わる。なるべく個々の得意分野を活かそうとしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在外部研修はないが社内研修はよく行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や申し送り、勉強会、研修など、しっかり行われている。他施設の職員と研修やヘルプを通して交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン会議がしっかり行われている。本人が安心できるように本人の声にも耳を傾けている。記録を残し共有しながらケアをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の声にも耳を傾けている。事前にアセスメントをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様へ情報提供が適宜なされている。まずは必要としている支援を見極めている。入居前にご本人やご家族と話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし合えるよう努めている。本人の能力に合わせて協力して頂ける部分は助けてもらっている。出来ることを把握し手伝って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支えていくよう本人の声を聴こうとしている。ご本人の訴えや希望を家族様にも相談しながら叶えようとしている。日常生活や体調を毎月手紙でも報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ努めている。短時間でも面会できるようにすすめている。友人関係・家族関係を入居後も継続し来設して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように一緒に関わり合えるように努めている。気の合う入居者様を同じテーブルに座って頂いている。入居者様間のコミュニケーションがスムーズにいくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様から連絡があれば速やかに管理者に報告しフォローできる体勢ができています。個人情報を守りながら必要に応じて行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思を確認しています。本人本位に検討している。カンファレンスにご本人も参加して頂くことがある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めている。各部屋個性的なのは馴染を大切にしているからだと思います。生活歴など入居前に情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り努めています。申し送りなどで各スタッフが共有して対応に努めています。変化があれば記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン会議で話し合いが行われています。話し合いをしながら計画を作成している。現状に即した計画が作られている。様々な職員にモニタリングを記入して頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当スタッフはもとより個別で一言メモに様子や気づきなどの記入がなされ共有されています。共有し計画の見直しに活かしています。モニタリングの記入とヒヤリや申し送りを通して共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本に希望など記録に残したり管理者に報告されて共有され柔軟に対応しています。ご本人の希望を最大限優先し出来る限り叶えようとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦の為地域の方やボランティアの受け入れは行わなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の希望で他医院を使う方が数名いる。2週間に1度の往診と必要時に臨時の往診をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度情報を集め1人1人の状態を直接確認し必要な処置などを指示している。看護師と連携し適切な処置を受けられるようにする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を積極的に行い入居者様の適切な処置について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	チームで支援に取り組んでいる。家族様・かかりつけ医と話し合い対応を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当などの訓練をしている。急変時はすぐに管理者へ連絡し指示を仰ぐように徹底している。勉強会を行っているが実践力は実際に必要な時に行うことで学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の時を想定し訓練を行っている。災害対策の勉強会を数か月に1度している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時々乱れることがあるがその都度管理者より周知がなされている。時々言葉使いが乱れることがある。概ね丁寧な対応をしている。3か月に1度振り返る機会を設けながら様々な場面で配慮が届いているか確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望やご本人の気持ちを汲み取るようスタッフが働きかけています。入居者様の食べたいものをメニューに組み込むなどはしている。月に1度希望メニューを提供して。何か行動を起こす場合必ずご本人の話を伺う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば入浴をしたくない時は次回に見送ったり、横になりたい時はベッドへ案内する等希望に沿っている。時には施設業務を後回しにしながらご本人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身綺麗に整えられている。ご自分で出来ないところはお手伝いしながら清潔を保っている。服が汚れたらその都度着替えを行っている。着替えはご自分で選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好きなものを聞いて提供している。元気な入居者様としている。嫌いなメニューの時は個々にメニューを変更している。食事前にメニューの発表をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キッチンと水分量を記録し出来ている。管理栄養士のメニューでバランスは考えられている。ご飯の量や好きな飲み物、水分量の多い副食など工夫している。食事・水分量の少ない方へは個別で声かけなどを行い促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアと歯科による口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立から一部介助の方への声掛けや見守りが行われている。排泄確認が困難な方もトイレ後の確認を行っている。必要な方のみリハパンやパッドを使用している。量も把握し適切なものを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日確認し必要時適切な量の頓服薬を使用。食事や水分も整えられている。排便管理はできている。食事に食物繊維が多く含まれているように思う。水分摂取や廊下の往復運動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なかなか入浴できない方の時間を合わせたり個別での対応を行っている。週3回の中で各自のタイミングを合わせています。ご本人の希望に沿った入浴剤の使用や時間帯を決めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団で寝ていた方は出来る限り布団を使用する。日中出来るだけ体を動かし安眠できるよう環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更時は共有がなされ注意すべきことなど変化の確認ができている様子。間違えないように2人で確認しあって服薬介助をしている。服薬後の状態の観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日レクや歌声、個別機能訓練など行われご本人達も楽しそうに参加されている様子。誕生日会や年中行事を盛り上げてやっている。食器拭き・洗濯物や配膳などそれぞれの出来ることや好きなことを活かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦で外出は減っているが食べたいものの欲しい物の希望を聞き努力している様子。今はやれていません。現在遠出は控えているが外出を希望される時は外に出ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能であればご本人のお金で支払いを行って頂いている。ご自分でお金を所持してる方もみえ買い物もやっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話できるように介助されている。不穏時に家族様に電話して安心して頂けるように家族様の了解を得ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	綺麗で配置もスッキリしています。テラスで日光浴もしています。掃除・消毒は行き届き悪臭はない。落ち着いた雰囲気の中で季節の飾りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごしたりお部屋で過ごしたり各々が思うように過ごしている様子。ソファがあり入居者様同士で座ったり横になる方もみえる。気の合う入居者様を近くの席に座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1人1人個性があり馴染の物を使い動きやすい配置で考えられています。各個室個性的になっているので家族様と相談の上のことと思われる。入居時に馴染の物を持ってきて頂いている。(仏壇・畳・タンスなど)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スッキリしています。トイレも分かりやすいです。手すりなどを利用し立位がとれる方はして頂いている。		